

2013年度後期 授業評価アンケート結果に対するコメント

—経済学部—

経済学部長 杉本 義行

今回、経済学部開設科目（法学関連科目を除く）で後期開講科目のうち、実施が任意であるゼミ・演習、受講者10名未満の科目をふくめて245科目についてアンケートが実施され、延べ6,579名の経済学部生のみなさんからご協力をいただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。また、アンケートの実施に対しての貴重な授業時間を割いてご協力頂いた経済学部専任・非常勤の先生方にも深く感謝いたします。

さて、前回同様、このコメントを作成するにあたり、科目ごとの個別集計結果ならびに記述による「授業に対するコメント」にすべて目を通したことを、まずご報告いたします。なお、ご承知のように個別科目の集計結果は自由記述欄のコメントを含めてCampus Squareから自由に閲覧することが可能です。是非、積極的に活用していただきたいと思います。

まず、授業の満足度を示す「総合評価」の学部平均は、5段階評価で4.18（昨年度4.14）であり、昨年度よりも若干向上しました。また個別科目で見ると、4.5以上の高い評価の科目も散見され、概ね良好であったと思われます。ただ、この学部全体の「総合評価」の値を他学部等と比較すると、社会イノベーション学部4.25、全学共通教育の4.25とほぼ同等ではありますが、大学全体の4.31をはじめ文芸学部4.47、法学部4.34と比較して、見劣りがする値となっています。ちなみに、文芸学部との個々の項目での比較では、「この分野の関心が得られた」は、経済が4.05に対して文芸は4.35であり、「教員の熱意」では4.17に対して4.51「発言・議論等授業参加を積極的に促した」では3.86に対して4.17、「授業時間の有効活用」が4.23に対して4.44となっており、授業の内容、やり方等に改善の余地がまだまだあることを示唆しています。また、「休講または教員の遅刻が多かった」という項目では、文芸が4.42であるのに対して4.06であるのは、注意しなければならないと感じました。

設問ごとの結果と「総合評価」との相関係数をみると、これまでと同様に、「この分野の関心と学力が得られた」という項目が0.79と相関係数が一番高くなっており、ついで「授業への教員の熱意を感じた」（0.70）、「教員の話し方が明瞭であった」（0.66）、「教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心掛けた」（0.66）、「教員は授業時間を有効に利用した」（0.63）、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」（0.63）が重要なファクターであることが示唆されています。

私なりの理解では、＜授業の内容の面白さ＞とそれをくどれだけ理解できるか＞が学生のみなさんの評価ポイントであるということが出来ます。したがって、理解度に影響を与える様々な要因、すなわち板書の見やすさ、私語の多さ、話し方の明瞭さ、授業の進行スピードなどが評価項目として重要視されています。各科目へのコメントにも、これまで同様に、「私語に対して注意がされていない」「私語で集中できない」などの指摘がいくつかあり、私語は学生のみなさんの問題でもありますが、良好な学習環境の確保に教員がこまめに配慮する必要があると感じました。

指摘された点を真摯に受け止め、組織として授業の一層の質向上につとめたいと考えます。